

水俣病

出水市にも「市民の会」

未認定患者へ幅広い活動展開

出水市に隣接する鹿児島県出水市に、水俣病汚染などをする住民組織「水俣病市民の会」がこのほど発足した。

同市には患者や未認定患者がおりながら、支援する市民組織がなかった。会は水俣病についての知識を住民に浸透させ、これらを基礎に他の公害にも目を向けさせようとする幅広い目的があるほか、当面は患者を支援し、未認定患者を捜し出すなどの活動をする。

出水市には郷土史、文化財などの研究や詩歌などを創作するグループなどをひくくめる「出水文化会」という文化団体がある。その中でも水俣病についての論議がかわされてきていたが、この会員たちの中から高校教師を中心とした水俣病を研究しようとする人たちを結成した。世話人は八幡町協和医院院長石沢茂徳さん(四七)。石沢さんの話によると「水俣病を知らずに公害が何たるかは語れるものではない。今後は産卵性水俣病などの問題もある。これらのことを市民に知ってもらいたい、将来は周辺のあらゆる公害についても市民が敏感になるように

しなければならぬ。医者個人としては会社の補償問題などは関係なく、現に患者がいるのなら早く患者を救ってあげる社会的使命がある」という。会員は二十人。同市には八日に認定された二人を含めて七人の認定患者がいて、さらに現在公害被害者認定審査会に認定申請している人が六人。鹿児島でも「隠れ水俣病」患者が、出水市を含めた不知火海沿岸にいるものとみて、近く住民検診を実施するものとみている。

施する。こうした中で市民運動を展開しようとしているわけで今後注目される。

特に同市の場合、三十四年ごろの水俣病発牛当時、典型的な水俣病患者がいたにもかかわらず「魚が死ねなくなる」などの理由で、患者を隠していた例がある。今後出水市の水俣病市民会議(日吉フミコ会長)とも連絡を取りながら活動するという。